乳幼児の頭部外傷への対応

意識障害がある場合には、頭蓋内に重大な病態が発生していると判断して、すぐに119番通報します。足の裏をトントンと叩きながら、名前を呼んで反応を確認します。



意識障害がなくても、その後にけいれん発作が起きたり、嘔吐を繰り返したり、強い頭痛がある場合は、緊急対応が必要な状態です。こどもの様子から手足に力が入らない場合は麻痺があるかもしれません。頭を両手で包み込むようにくまなく触り、へこみや、たんこぶがないかを確認します。

JSCの災害共済給付データによると、幼稚園・保育所等における事故事例のうち、頭部外傷は年間1,000件以上発生しており、その原因は、転倒と落下を合わせて約1/2以上を占めます。
頭部外傷は命に関わることもあるので、適切に対応することが重要です。

重症頭部外傷の可能性があるので、応援を要請し119番通報します。
救急隊到着まで必ずこどもから離れずに容態を観察します。

頭部外傷では呼吸停止を起こすことがあります。
呼吸がゆっくりになったり、不規則になったりする場合には、心肺蘇生を開始します。(p.02「心停止の救命処置」および裏表紙を参照)

頭部外傷発生

意識障害の確認例
- 反応がない
- 開眼しない
- 視線が合わない
- 声を出さない
- 話ができない
- 興奮状態
- うとうとしている

危険な症状の確認
- けいれん
- 繰り返す嘔吐
- 強い頭痛
- 手足に力が入らない
- 鼻や耳から血液や液体が出る
- 頭にぶよぶよのたんこぶがある
- 頭がへこんでいるなど変形がある

衝撃強度の確認
- 1m以上の高さからの墜落(2歳未満)
- 1.5m以上の高さからの墜落(2歳以上)
- 高速物体(ぶらんこ等)との衝突
- 交通事故



意識障害の有無 なし → **危険な症状の有無** なし → **危険な状況の有無** なし → **年齢が小さく確認が不安** なし → **いつもと同じように過ごす / 大人がそばで観察を継続する**

意識障害の有無 あり / **危険な症状の有無** あり / **危険な状況の有無** あり / **年齢が小さく確認が不安** あり → **119番通報**



119番通報 → **呼吸の確認**
11回/分以上で、規則正しい呼吸

呼吸の確認 あり → **救急隊の到着を待つ**

呼吸の確認 なし → **心肺蘇生の開始**

p.02「心停止の救命処置」を参照



速やかに受診
- 小児科
- 脳神経外科



けがの直後に意識障害や危険な症状がない場合でも、けがの「受傷エネルギー」が大きい場合には、脳出血や脳の損傷などが発生する可能性が高く、緊急に医療機関を受診する必要があります。

乳幼児の場合には、自分で症状を訴えることができません。確認するべき事項をクリアしていても、なんとなく普段と様子が違う、周囲の大人が心配する状況であれば医療機関で診察を受けましょう。

心停止
誤嚥・窒息
アナフィラキシー
熱中症
頭部外傷
歯・口の外傷
眼の外傷
手指の外傷